

新島襄生誕150年 生誕から脱国まで

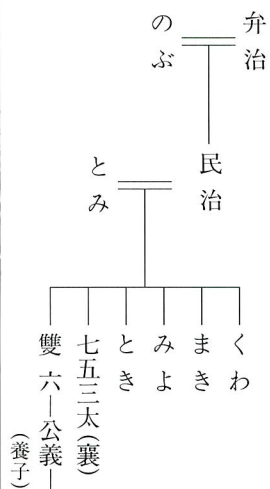


1864 (元治元) 年 6 月 13 日、脱国直前家族へ送るため、函館で撮影した湿板写真 (8×6.5センチ) をもとに、のち原田直次郎が描いた肖像画

新島襄生誕の地碑 (学会会館敷地内、東京都千代田区神田錦町 3 丁目 28 番地、1941 年 9 月 27 日建碑) 碑銘は徳富蘇峰

新島襄は、1843 (天保 14) 年 1 月 14 日 (陽暦 2 月 12 日) 江戸神田小川町安中藩邸内で生れる。

新島家家系



父、民治 (是水) [1807 (文化4) 年2月14日～1887 (明治20) 年1月30日]

母、とき [1807 (文化4) 年10月10日～1896 (明治29) 年1月7日]

弟、雙六 [1847 (弘化4) 年12月14日～1871 (明治4) 年2月7日]



12歳〔1855（安政2）年〕の
時に描いた鉄拐仙人図

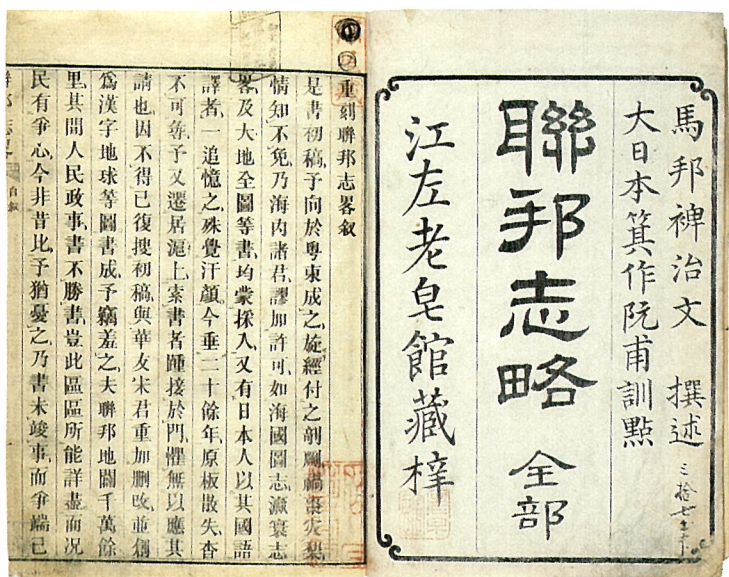
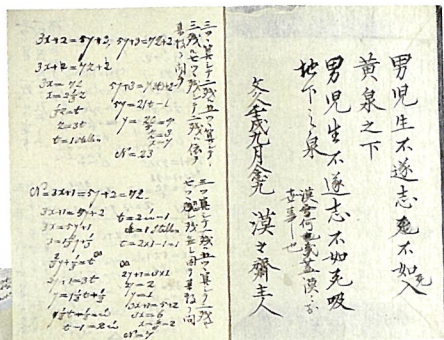


10歳の頃に描いた撫子図。賛は祖
父、弁治（曲江）
「楽にひまなき撫子の手入かな」

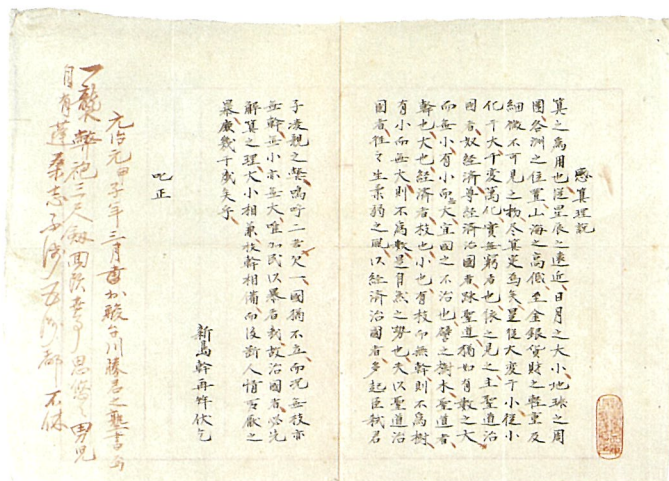


少年時代に描いた山水の習作

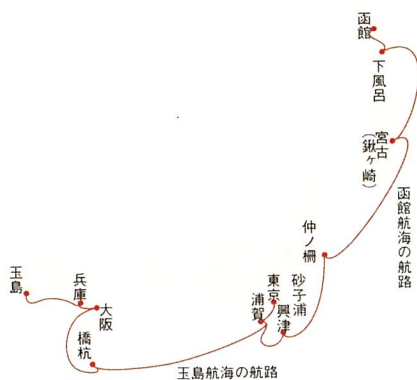
17歳から19歳にかけて新島が幕府の軍艦教授所で勉強した蘭学の写本、算数・代数・航海数学・航海術などのノート類



新島が20歳頃読んだ『聯邦志略』
(アメリカ合衆国の地理・歴史書)



1864 (元治元) 年3月10日函館航海出発直前に「感算理説」の余白に記した漢詩「一襲弊袍三尺劍 回頭世事思悠々 男児自有蓬桑志 不涉五洲都不休」



玉島航海〔1862 (文久2) 年11月12日
 ~1863 (文久3) 年1月14日〕
 函館航海〔1864 (元治元) 年3月12日
 ~4月21〕の航跡

富士卯之吉 (のち成豊)
(1838年～1922年)



塩田虎尾 (1842年～1913年)
玉島航海以来の友人、備中松山藩士



ニコライ司祭 (1836年～1912年)

新島の脱国時の扮装。アーモスト大学在学中、1870（明治3）年級友の求めに応じて再現したもの



「新島襄海外渡航乗船之处」碑

1954（昭和29）年8月21日、函館市仲浜町海岸に建立。新島襄自筆の漢詩が刻まれている。

男兒決志馳千里 自嘗苦辛豈思家
却笑春風吹雨夜 枕頭尚夢故園花



ワイルド・ロウヴァー号のH・S・テイラー船長
（1829年～1869年）



ベルリン号のウィリアム・T・セイヴォリー船長（1827年～1897年）

ベルリン号は長崎のウォルシュ商会の持ち船で、木造二木マストのスクナーブリック、長さ二十一間半、幅四間二尺、深さ一間半、207トン。



ワイルド・ロウヴァー号（油絵・チャタム歴史協会所蔵）。

新島は、ベルリン号のセイヴォリー船長の斡旋により、1864（元治元）年7月9日（陽暦8月11日）午後5時移乗。

船主／A・ハーディー、船長／H・S・テイラー、1853年、メイン州ダマリスコッタのオースチン・アンド・ホール造船所で進水、3本マスト、1100トン、長さ187フィート、幅36フィート、吃水22フィート。

新島旧邸

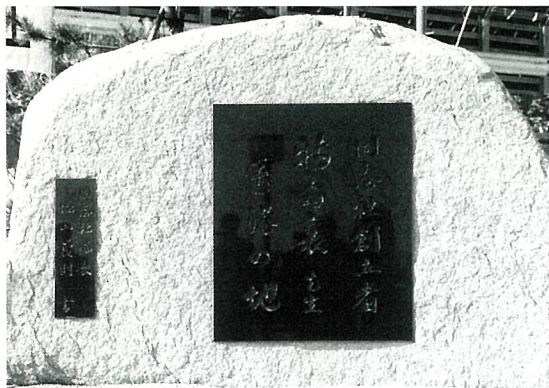
新島襄先生永眠100周年・生誕150
年記念事業として昨年7月2日保存
修理工事が竣工した新島旧邸。



居間



書斎



「新島襄先生寄港の地」 記念碑建立除幕式

1992（平成4）年10月22日午前10時から、青森県下北郡風間浦村大字下風呂字街道添50番地「海峡いさりび公園」に、「新島襄先生寄港の地」記念碑が風間浦村により建立された。

新島襄寄港記念碑

所在地 青森県下北郡風間浦村大字下風呂字街道添50番地
 碑文 松山義則総長
 石材 碑 花崗岩（白御影ー岩手県産・黒御影ーインド産）
 沿革石 花崗岩（黒御影ーインド産）
 間知名 安山岩（青森県産）
 寸法 碑 縦1.9m×2.9m×奥行0.75m



祝辞を述べられる小野慎一風間浦村長



祝辞を述べる松山義則総長



新島襄生誕150年記念会

新島襄生誕150年を迎えた2月12日(金曜日)午後5時から、京都は新島会館、東京は学士会館で、同時に記念会並びに記念講演が行われた。

新島会館で行われた 生誕記念会

閉会のことばを述べる
前窪 敏同窓会副会長



新島襄先生生誕150年を迎えて
を述べる松山義則総長



開会のことばを述べる
巽 悟朗校友会長



「日本の私学——役割と展望」と題して
講演中の永井道雄氏（財団法人国際文化
会館理事長、国連大学学長特別顧問）

学士会館で行われた生誕記念会



開会のことばを述べる
徳弘勢也校友会東京支部長



新島襄先生生誕150年を迎えて
を述べる岩山太次郎大学長



閉会のことばを述べる
渡辺妙子同窓会東京支部長



「創造の風土」と題して講演中の
江崎玲於奈氏（筑波大学長）



新島襄生誕150年記念礼拝

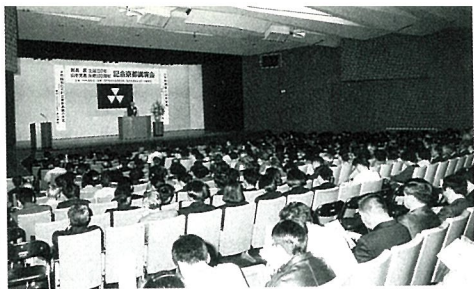
2月14日（日曜日）午前10時から同志社栄光館ファウラーチャペルで新島襄生誕150年記念礼拝が学校法人同志社と日本基督教団同志社教会の主催で行われた。



「新島襄先生の生誕」と題して奨励中の
松山義則総長

司式者の佐伯幸雄同志社教会牧師



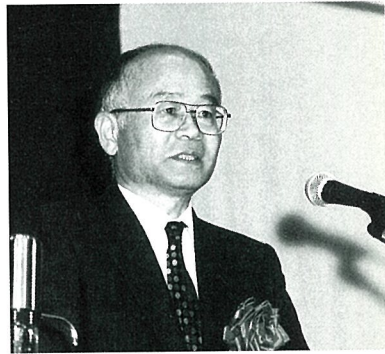


新島襄生誕150年記念講演会

1992年10月30日（金曜日）京都市内の京都産業会館 8階シルクホールで午後6時から山本覚馬永眠100周年記念もかねて京都講演会が行われた。



「新島襄と山本覚馬——京都の近代を作った男たち——」と題して講演中の早乙女 貢氏（作家）



「同志社の創立者新島襄の大志——日本の近代化のために——」と題して講演中の井上 勝也氏（大学文学部教授）

1992年11月26日（木曜日）東京都内の東京全日空ホテル地下1階鳳の間で午後5時から東京講演会が行われた。



「考古学と日本神話」と題して講演中の森 浩一氏（大学文学部教授）



「アメリカ南北戦争直後のニューイングランド——アーモスト大学と新島襄と祖父オーテス・ケーリ——」と題して講演中のオーテス・ケーリ氏（大学名誉教授）



「人間・キリスト者・教育者新島襄」と題して講演中の井上勝也氏(大学文学部教授)



1992年12月6日(日曜日)神戸市内の神戸国際会議場メインホールで午後2時から神戸講演会が行われた。

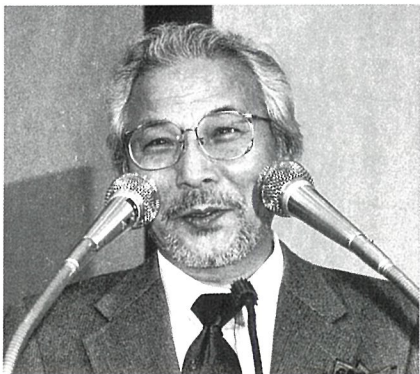


「邪馬台国と卑弥呼の謎」と題して講演中の黒岩重吾氏(作家)

1993年1月21日(木曜日)大阪市内のロイヤルホテル2階山楽の間で午後5時30分から大阪講演会が行われた。



「星雲期の同志社——新島襄と徳富蘇峰を焦点に——」と題して講演中の伊藤彌彦氏(大学法学部教授)



「教育、宗教そして伝統——新島襄をめぐる——」と題して講演中の西部邁氏(評論家)

創立117周年

創立117周年記念を迎えた11月29日（日曜日）午前6時30分創立117周年の早天祈禱会が若王子山頂同志社墓所で持たれ、あわせて山本覚馬永眠100周年記念、新島八重永眠60周年を記念し、それぞれの墓前に学校長が献花を行った。



早天祈禱会に引き続き10時から、同志社栄光館ファウラーチャペルで記念礼拝が行われ、『隅のかしら石』と題して、稲垣守臣筑波学園教会名誉牧師が説教を行った。



稲垣守臣名誉牧師



司式者佐伯幸雄牧師



式辞を述べる松山義則総長



同志社設立の始末を朗読する
岩山太次郎大学長

正午から新島会館礼拝堂で創立117周年記念式典が挙行された。



記念式典に引き続き午後1時から、新島会館大研修室で創立117周年記念のリユニオンが開催された。





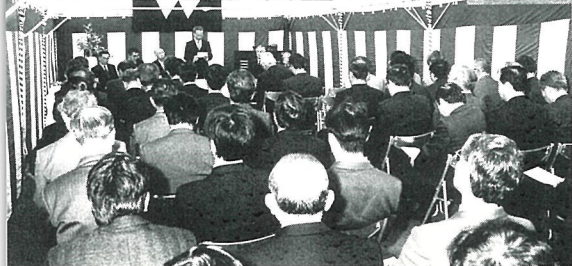
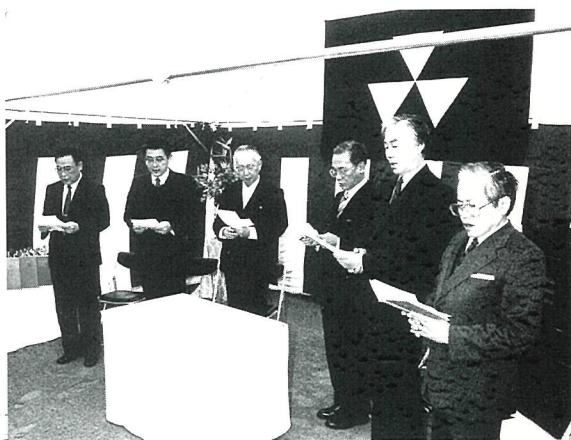
厳かに鋤入れの儀を行う松山義則総長



厳かに鋤入れの儀を行う岩山太次郎大学長

同志社大学田辺校地 厚生施設棟増築工事起工式

1月8日(金曜日)午前10時30分から
同志社大学田辺校地厚生施設棟増築
工事の起工式が田辺校地で行われた。





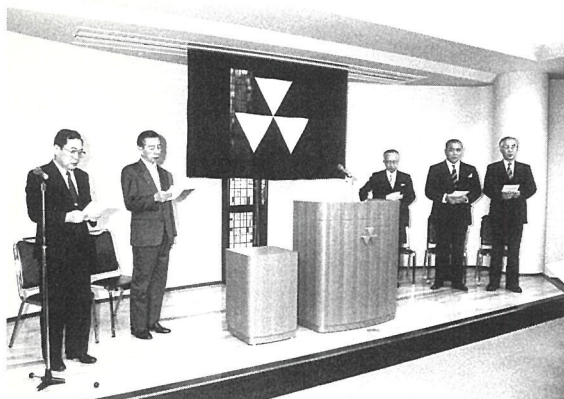
同志社新島会館別館 新築工事献堂式

新島襄生誕150年記念として建設中の新島会館別館新築工事が完成し1月30日（土曜日）午前10時30分から献堂式が行われた。なお、2月12日（金曜日）午前11時30分から開館式が行われた。

式辞を述べる松山義則総長



挨拶を述べる巽 悟朗校友会長



新島会館別館



第16回新島講座

1992年10月13日（火曜日）、16日（金曜日）の両日
ドイツ、マインツ大学教授アンドレアス・シュピー
ラ博士を迎え、第16回新島講座が同志社大学神学館
チャペルで開催された。

